

2024年2月14日

各位

会社名 サカタインクス株式会社
代表者名 代表取締役 社長執行役員 上野 吉昭
(コード番号 4633 東証プライム市場)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長 原田 茂樹
電話番号 03-5689-6601

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

当社は、2024年2月14日開催の当社取締役会において、資本コストや資本収益性、および株価状況についての現状認識を行い、改善に向けた方針・取組みについて下記の通り決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状認識

当社のPBRは2018年以降、1.0倍を下回って推移しております。

この主な要因は次の2点であると考えております。

- ① ROEが当社株主資本コスト（6～7%と設定）と同水準で推移しており、株主資本コストを十分に上回る資本収益性を確保できていないこと
- ② 当社グループの企業価値向上の取組み、成長戦略がステークホルダーに十分浸透していないこと

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
PBR (倍)	1.44	0.95	0.93	0.88	0.72	0.65	0.73
ROE (%)	11.4	6.3	5.5	6.9	6.1	5.3	8.1
PER (倍)	12.60	15.10	16.90	12.80	11.80	12.30	9.10

2. 改善に向けた方針・取組み

当社は、資本収益性の向上と持続的成長の追求に努めるとともに、成長ストーリーをステークホルダーの皆様と共有することが、当社グループの企業価値向上に寄与するものと認識しており、以下の方針のもと各種取組みを実行してまいります。

(1) 収益力強化・成長戦略

長期ビジョン・中期経営計画で掲げた各種戦略・施策の実行により、ありたい姿、目標達成を実現する

(2) 財務・資本戦略

財務健全性、成長投資、株主還元のパランスを考慮した財務・資本戦略を実行する

(3) サステナビリティ戦略

事業活動を通じて、サステナブルな社会の実現への貢献を目指す

(4) IRの強化

ステークホルダーとの対話、情報開示の充実により、当社グループの成長ストーリーを共有する

詳細は別紙をご参照ください。

また、本日発表いたしました新中期経営計画、および2024年3月5日(火)に公表を予定している中期経営計画説明会資料を併せてご参照ください。

以上

SAKATA INX...

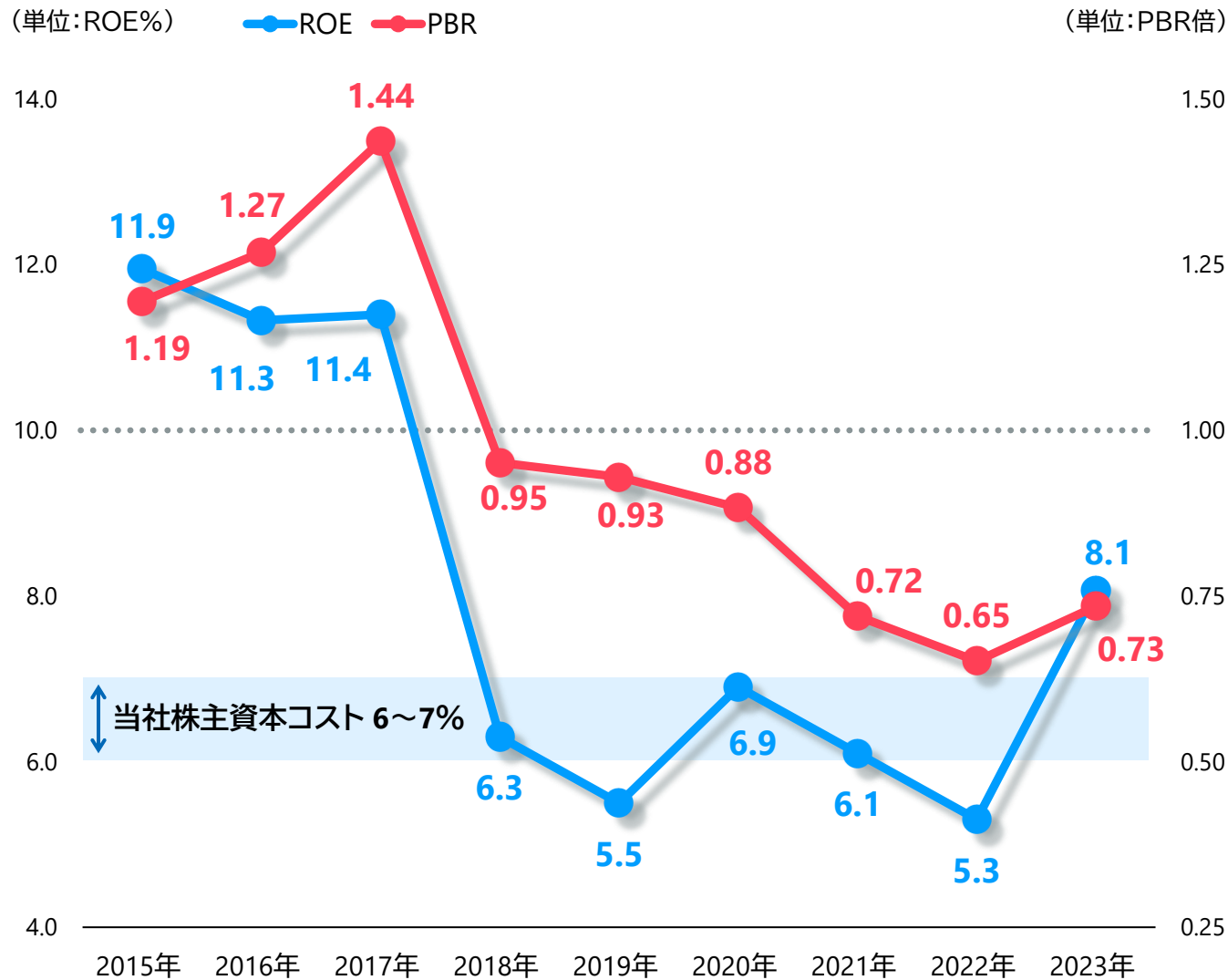
Visual Communication Technology

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

サカタインクス株式会社

2024年2月14日

東証プライム | 証券コード:4633



分析

- 2017年以前は順調に推移していたROEは、2018年以降、株主資本コストと同水準に低下
- 主な原因は印刷インキの原材料価格の高騰に伴う利益率の低下
- PBRの低迷は、低調な資本収益性によるものと考えられる
- 当社グループの成長ストーリーが浸透していなかったことも低PBRの要因の1つ

資本収益性の向上と持続的成長の追求により、
PBRの改善につながるものと認識

— 企業価値の向上に向けて



企業価値向上に向けた方針 1 2 3 4

資本収益性の向上

持続的成長の追求

1 収益力強化・成長戦略

長期ビジョン・中期経営計画
の目標達成

事業収益力の強化

新規事業の創出

2 財務・資本戦略

財務の健全性・成長投資・
株主還元のバランス

事業投資

株主還元

最適資本構成

3 サステナビリティ戦略

サステナブルな社会の
実現への貢献

サステナビリティ経営の
実践

4 IRの強化

成長ストーリーの共有

ステークホルダーとの
対話の充実

情報開示の拡充

取り
組み
施策

1 収益力強化・成長戦略

長期ビジョン・中期経営計画の目標達成

事業収益力の強化

事業毎の成長性や収益性を分析・評価し、低成長・低収益事業については投下資本の最適化を図るとともに、資産の回転率を高め、設備稼働率を最大化する効率経営に努める。

また、研究開発、設備投資、人員などのリソースを高成長・高収益が期待できる事業に重点的に再配分することで、更なる事業拡大を目指す。

これらの取組みに加え、M&Aや新規事業創出なども進めながら、事業ポートフォリオの最適化を図る。



新規事業の創出

「エレクトロニクス」「エネルギー」「ヘルスケア」「バイオベース・脱石化材料」の4分野をターゲット領域とし、市場環境を深耕し策定した戦略・戦術のもと、社会のニーズに合致した新規事業の創出を目指す。

また、自社の技術やサービスと親和性の高い外部の技術やアイデアを活用すべく、他社との共同研究・開発や産学連携、スタートアップ企業への出資など、オープンイノベーションの積極的活用により新たな価値を共創し、新規事業創出に向けたプロセスを加速化させる。



2 財務・資本戦略

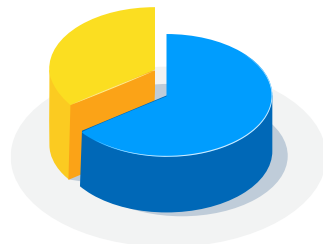
財務の健全性・成長投資・株主還元のバランス

事業投資

持続的成長のため積極的な投資を実施していく。

資本収益性を高めるため、現中期経営計画(CCC-II)に400億円を投じ、経営基盤強化を図る。

そのうち将来成長に向けた戦略的投資として150億円を割り当てる。



株主還元

株主への利益還元を経営上の重要施策として位置付け、業績・投資計画・経営環境を総合的に勘案し、積極的かつ安定的な配当と機動的な自己株式の取得を実施していく。

この方針に基づき、現中期経営計画期間中に総還元性向50%以上またはDOE(株主資本配当率)2.5%以上を目指す。



最適資本構成

企業価値を最大化する最適資本構成を追求していく。

強固な財務基盤維持のため健全性は十分に確保しつつ、節税効果のある有利子負債を上手く活用し、適正範囲内で財務レバレッジの向上を図ることによりWACC低減を果たす。さらに保有資産の圧縮・政策保有株式の縮減により資本効率を改善させる。



3 サステナビリティ戦略

サステナブルな社会の実現への貢献

サステナビリティ経営の実践

気候変動をはじめとした環境問題の解決、人権保護や安全で働き甲斐のある労働環境の整備、コンプライアンス遵守と統制のとれたガバナンスなど、サステナブルな取り組みを事業活動の中心に据え実践する。

さまざまなステークホルダーからの要請を敏感に察知し、また、社会の変化に適切に対応することで、社会的価値と経済的価値の創造を図る。



4 IRの強化

ステークホルダーとの成長ストーリーの共有

ステークホルダーとの対話の充実

情報開示の拡充

コーポレートリレーション本部を立ち上げ、社内外のコミュニケーションを強化する。

投資家との面談や会社説明会など、ステークホルダーとの対話の機会を増やし、成長ストーリーの浸透を図る。

財務情報や経営戦略、サステナビリティ情報の積極的な開示、統合報告書やウェブサイト、決算レポートの内容充実など、ステークホルダーの要請に応える情報開示の拡充をすすめる。



本資料に記載されている将来に関する記述は、現在当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、不確実性が内在しております。従って、本資料の情報は断りなく変更されるものである点をご了承願います。

<お問い合わせ先>

サカタインクス株式会社 コーポレートコミュニケーション部

電話 03-5689-6601

メール inx-prir@inx.co.jp